

令和4年11月1日（火） 明剣館

三中にて。光崎さん指導による木刀の稽古法を見守る。指導の必要な場面が随所、はかどらないのが少しもどかしい。面を着けて基本稽古。残った限られた時間を徹底的に切り返しを行う。元立ちが面で受けて、続いて竹刀で受ける方法で。最後に小学生同士で組んで、元立ちで切り返しを受けさせる、一般の方に受け方を指導してもらいながら。いい切り返しになってきた。地稽古。一般の元立ちに子ども達が掛かる。のびのびした大きな技を元立ちが引き出してくれた。

令和4年11月5日（土） 大阪総体剣道 男子団体

岸和田市総合体育館にて。都工の監督を務める。開会前、竹刀検量で思わぬ苦戦。些細な不備が不合格につながる。補欠生徒と大急ぎで不備であるゆるみ等を修正して、再度検査に、皆合格になる。竹刀の手入れは安全上重大、いい教訓になった。1回戦は勝ち進むも、2回戦は代表戦の末、敗退。悔しい敗戦となった。部員たちが全力を尽くしたことに満足。解散前には、試合までの稽古の積み重ねの大切さ、団体はチームとして戦うこと、最後まで見学していい試合を多く見て自分の肥やしにする貪欲さを求めたい、などを話しして解散。明剣館の凌君が出場、所属校は3位入賞、活躍に目を細めて見守る。



令和4年11月5日（土） 明剣館

三中にて。多くの一般の方と小学生が参加。木刀の稽古法。まだまだいろいろと指導が必要。面を着けて基本稽古から。一般の元立ちに、掛り手の半分は小学生が2人、半分は一般で、元立ちも2回に1回は基本稽古ができるように進行する。昇級審査のメニューを行う。大人に元立ちのときの子ども達の基本が実にいい。明剣館の子ども達の基本の育成には自負するものがある。切り返しは子ども達に受ける練習もさせる。地稽古、子ども達の大きないい技を引き出してもらっている。終礼で審査の流れを説明して、子どもは解散。一般の地稽古を見守る。暉君は最後に打ち込み・掛かり稽古。限られた中でしっかりした基本をつくってほしいと願う。

令和4年11月10日（木） 明剣館

殿二小にて。始めの礼で入口の履物の乱れについて指導。乱雑でなくても、きれいに揃っていないければ、道場と言えない。の木刀の稽古法。今日は佑弥と理杜はお互いに、他は元立ちに2列で掛かる形で行う。いよいよ20日以降が近づいてきて、いい形になってきた。元立ちにかかる引立て稽古の後、試合稽古を行う。あれだけ出来上がってきた基本技を試合で全く出せなていないのが残念。試合や地稽古で意識しなくても出せるように繰り返し基本稽古をしていることを終礼で強調する。子どもの稽古を終えて、一般の稽古に見入る。

令和4年11月15日（火） 明剣館

三中にて。3年生以上で木刀の稽古法の指導。基本4で正しい鍔迫り合いを指導。面を着けて基本稽古。昇級審査組はお互い同士で審査を想定して私が指導。それ以外は志賀さんの指導により、多くの一般の元立ちに受けてもらう。基本はほぼ出来てきた。あと、地稽古や試合の場で繰り返し稽古してきた正しい基本技を出せるかどうか。出来てきた子、ここが課題の子。。。枚方総体まであと稽古1回、昇級審査までは2回。仕上げ急ピッチ。

令和4年11月19日（土） 明剣館

三中にて。樟葉剣心会から松元君兄妹が繁富先生、竹上先生とともに来訪、終始充実感あふれる稽古を展開する。総体を明日に先に控えて小学生も多く参加、活況を呈する。佑弥、続いて由芽・涼葉と木刀の稽古法。素振りは私も一緒に行く。面を着けて基本稽古の指導。掛かる側は2列、元立ちは2列目に基本を受けさせる要領で、子どもは普段どおり一般の元立ちに大きな技で掛かり、元立ちも一緒に稽古する。この方法も久しぶり。充実感の雰囲気の中で実愛の基本がいい。子ども達も思い切った大きな技を繰り出していた。休憩をはさんで、一般同士の地稽古と並行して、子ども同士の試合稽古を指導。基本稽古での筋目正しい技を試合の場で繰り出すのは、経験が浅いほどに困難。明日の総体では遺憾なく発揮してくれることを願う。終わりに穰也と松元君、佳音と松元さんで試合稽古。明日はタッグを組んでいいチームができそう。

令和4年11月20日（日） 枚方秋季総体

枚方市総合体育館2Fにて。枚方市剣道連盟会長として大会委員長を務める。準備、打合せ、進行にいたるまで、役員、審判、係の方々への協力に感謝。午前と午後の2度の開会式で挨拶をする。子ども達が日頃の稽古の成果を試す場を開催できたことの喜び、大会の開催・運営に関わってくださった方々への感謝、参加者から絶対に感染者を出さないために運営ルールを守ってください、全員が思い出に残る大会になることを祈念。。。。



午前は中学生、午後に小学生選手ののびのびとした試合ぶりを見ながら、開催できて良かったとしみじみ思う。明剣館の子ども達の多くは今回がデビュー戦、楽しみに見入る。真価を発揮して個人、

団体で上位入賞した選手、不慣れながら一生懸命試合した選手、ここまでの稽古の取り組みを振り返りながら感慨深く観る。



令和4年11月22日（火） 明剣館

三中にて。翌日の昇級審査に焦点をあてての稽古になる。木刀の稽古法の仕上げ、今日は必要な本数にとどめる。面を着けての基本稽古。明日受審する者は小学生同士で、元立ちもできるように。他は一般の元立ちの掛かる。一昨日の枚方総体まで2方面の取り組みであったのが、今日は審査1本に絞って稽古、つつい口調も激しく指導。明日の全員合格を祈る。

令和4年11月27日（日） 寝四剣創立20周年招待試合

寝屋川・梅が丘小体館にて。寝四剣の創立20周年記念大会に招待され試合錬成を行う。祝賀のホットな雰囲気の中で組合せに従って試合が進行される。子ども達には寝四剣道クラブの20周年を祝福できるような立派な試合を期待したが、期待に応える立派な試合をしていたと思う。



普段の稽古で子ども達は指導者や大人の方々に受けてもらって各自の段階としては立派な技を身につけつつあることを実感した。今後に臨むこと。試合に出場する者は、自身はもちろん相手も、勝とうと思って必死で試合をする。だから打つべき機会でなければ相手を打つことはできない。その一番大きな機会を見逃して逃している場面を多く見かけた。ミーティングでそれがどこかをじっくりと話す。こういう機会をどんどん活用して、打突の好機に自分の技が繰り出せるようになって欲しいと願う。



令和4年11月29日（火） 明剣館

三中にて。週末には3週続きで大会参加が待っている。一般の元立ちに基本稽古をしっかりと受けてもらって、残った時間で試合稽古。正しい基本の育成と試合要領に慣れさせることの両面、しばらくはこの2方面の取り組みになりそう。